



しまね教育の日フォーラム

令和5年11月6日(月)
島根県民会館中ホール

プログラム

13時30分 開会

第1部 子どもの学びをつなげる ～しまねの幼小連携・接続～

- (1) 幼小連携・接続紹介動画
「しまねの幼小連携・接続」
- (2) 島根大学教育学部附属幼稚園
「探究活動としての幼児期の遊び」
- (3) 雲南市立斐伊小学校、斐伊こども園、斐伊保育所
「斐伊小学校区での幼小連携・接続の取組」

15時 再開

第2部 未来の創り手を育てる ～5市の学力育成プロジェクト～

- (1) 安来市教育委員会
『『ワクワク ゲンゲン ワイワイ学ぶ 安来っ子』の育成を目指して』
- (2) 雲南市教育委員会
「子どもにとっても教師にとっても楽しい学校づくり」
- (3) 大田市教育委員会
「危機感を共有し、つながり合って、学び続ける大田市教職員集団へ」
- (4) 松江市教育委員会
『『表現力を高める』ための効果的な学力育成モデルを探る』
- (5) 出雲市教育委員会
『『主体的・対話的で深い学び』を実現するための授業改善の組織的な推進』

16時30分 閉会

—時間は前後する可能性があります—

誰もが、誰かの、
たからもの。

どんなに時代が変わっても、受け継いでいきたい
それは、人のつながり、あたたかさ

さりげないけど、ほっとかない

互いの顔が見える、人間味あふれる関わりが心地いい

今を見つめ、未来に想いをはせる

そんな心を、ときに優しくつつみ、ときにそっと背中を押す

大切に育んできた“つながる力”は、

自分のサイズで、一生懸命生きる人を応援してくれる

未来への原動力

人が人のたからもの

誰もが誰かの応援団

いいけん、
島根県



しまね教育の日とは

教育に対する県民の意識を高め、日本国憲法及び教育基本法の本質にのっとり、本県教育の充実と発展を図るとともに、島根を愛しふるさとに誇りを持つ子どもたちを育むために、11月1日を「しまね教育の日」としました。

また、しまね教育の日の趣旨にふさわしい取組を実施する期間として、11月1日から同月7日までを「しまね教育ウィーク」としています。

本日の発表内容

第1部

子どもの学びをつなげる ～しまねの幼小連携・接続～

幼小連携・接続紹介動画

義務教育開始前後の2年間は、「架け橋期」と呼ばれ、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期です。そのため、子どもの発達や学びの連続性を見通した教育の充実が求められています。本動画では、架け橋期の子どもたちの成長の様子と、それを支える幼児教育施設と小学校の幼小連携・接続の取組の様子を紹介しています。



島根大学教育学部附属幼稚園

島根大学教育学部附属幼稚園では、日々豊かな環境を生かした、様々な主体的な遊びが展開されています。その中でも、代々受け継がれた遊びである「サラ粉あつめ・泥団子作り」では、〈①めあてをもつ⇒②まずやってみる⇒③考える⇒④試す・工夫する⇒⑤満足感を味わう・表現する⇒⑥次のめあてへ〉といった幼児特有の探究のサイクルを働かせています。

その中で、ICT(電子顕微鏡)も活用して遊びこむことで、深い学びを生み出しています。

遊びが主体の幼児教育を、『探究』という視点で小学校以降の学びとつなぐことで、幼児期の学び及び教育のあり方について日々実践研究を進めています。



斐伊小学校・斐伊子ども園・斐伊保育所

斐伊小学校区では、島根県教育委員会から令和2年度より2年間の研究指定を受け、幼小連携と接続のあり方について研究を進めました。研究指定が終了した後も、連携・接続の具体的な取組は続いており、それが子どもたちの学びの連続性や就学の際の安心感につながっています。

今回の発表では、特に成果を感じている取組として、「管理職の連携」「職員の連携」「子どものつながり」について紹介します。

また、取組の成果を「小学校から」と「幼児教育施設から」の視点でお伝えします。

第2部

未来の創り手を育てる ～5市の学力育成プロジェクト～

安来市教育委員会

安来市では、令和4年度から『しまねの学力育成プロジェクト』事業を研究校を中心に進めています。『授業改善の推進』、『学力育成協議会の設置』及び『外部支援の活用』を柱として、事業を展開しています。今回の発表では、それぞれの柱の中で特徴のあった取組について紹介します。また、取組の成果及び課題を研究校や安来市全体のデータをもとにお伝えします



雲南市教育委員会



雲南市では、「子どもにとっても教師にとっても楽しい学校づくり」を合い言葉に、4人の指導主事が協働して取組を進めています。

今日は、その取組の中から、「ICTサポートデー(学校訪問・支援)」「学習集団づくり」「ユニバーサルデザインの授業づくり」「経験の浅い教員への支援」「能力ベースの授業づくり」について紹介します。

私たちは、

- ☆教師は魅力ある授業を求めて努力する。
- ☆魅力ある授業が子どもの能力を高める。
- ☆子どもの能力が教師の活力を生む。

このような好循環の実現をめざしています

大田市教育委員会

大田市では、市内教職員が、児童・生徒の学力(確かな学力・学ぶ意欲)に危機感を共有し、校種・教科等を超えてつながり、新たな4つの視点から学び続ける教職員集団をめざし、学力育成に取り組んでいます。

- (1) 学習指導要領の主旨に則った授業改善
- (2) 本物(専門家)に触れる豊かな体験活動
- (3) 観察や実験等の体験と読書活動を結びつけた「理科読」の取組
- (4) 未来志向の「ふるさと夢未来講演会」の取組



松江市教育委員会



松江市では、本プロジェクトを通じて「自分の考えを文章で表したり、解法を言葉で説明したりすること(表現力)」をどのように高めていくのかについて、その効果的な学力育成モデルを探っています。

研究指定校である乃木小学校では「対話でつなげる」ことを切り口とした授業づくりや仲間づくりの充実の観点から、また、湖南中学校では生徒が「挑戦したくなる学習課題の設定と協働する学び方の工夫」の観点から研究を進めており、その取組について紹介します。

出雲市教育委員会

出雲市では、「わかる授業」の実現のため、全教科共通の授業づくりの考え方を示した『めあてと振り返りを意識した授業スタンダード』の定着を図っています。この『授業スタンダード』は、教員が授業のねらいを明確にもち、「まとめ」「振り返り」を具体的に想定しながら「めあて」を設定して授業を構成することの重要性を示すものです。

今年度、授業改善を組織的に推進するための方策・ポイント・手順として『授業におけるPDCAフロー図』を作成し、『授業スタンダード』とセットにし、教員一人一人が日々創意工夫を繰り返しながら授業力向上をめざし、継続的な授業改善の推進を図っています。

